令和５年度事業報告書

〔令和5年4月1日～令和6年3月31日〕

１．事業の結果

①入荷数量　58.384kg　（前年度実績　83.241kg）前年比70.1％

②配布数量　67.285kg　（前年度実績　77.708kg）前年比86.6％

③こども家庭庁助成金　中間支援団体としての食品配布数量（2回合計）343㌧

④配布先施設・団体数　　106（前年116）＊その他個人支援85件

⑤ 配布先施設・団体数　　107（前年106）その他個人支援26人。

２．事業の成果

（1）コロナ禍の終息と食品価格の上昇は、提供される食品の量の大幅な減少という結果を招いた　コロナのために販売できなくなった米や業務用食品の提供が消えた。値上げ後メーカーは生産／販売の調整を行い、余剰を出さない仕組みを構築し、余剰品の提供が減った。そのため、コロナ禍の3年間で大幅に増えたフードバンクの多くは受取り量が激減し集荷が困難となった。

（2）配布する食品を確保すると共に、当センターの運営費を賄うためにこども家庭庁の「ひとり親家庭等子どもの食事等支援事業」に中間支援団体として応募して採択され、年度内に2回配布事業を行った。対象地域は全国（主に神奈川県と東京都）

1回目：令和5年9月1日～令和6年1月31日

フードバンクTAMAとのコンソーシアム。

配布実績：食品詰合せ箱＋米5kg　13,398セット　重量換算241㌧

2回目：令和6年2月1日～3月31日

フードバンクかながわ、フードバンクTAMAとのコンソーシアム。

配布実績：米（2kg袋）51,000個　重量換算102㌧

（3）全般的に雇用状況は改善されているが、働けない高齢者や障がい者は収入が増えないために物価上昇の影響を受けている。前年度に引き続き高齢者対策を強化し市営住宅での食品／惣菜配布会を継続しておこなった。

（4）冷凍食品の扱いを強化し、入荷量16.7㌧（前年比142％）、配布量17.2㌧（構成比25.6％）、他の品目の入荷減を補い、提供食品の質の向上に努めた。

令和5年度　活動計算書

科目	実績
Ⅰ 収入	17,179,468
1. 受取会費	769,000
2. 受取寄附金	2,455,013
3. 受取助成金等	13,645,838
5. その他収益	309,617
Ⅱ 支出	11,868,420
人件費	3,772,577
旅費交通費	204,015
車両燃料費	283,694
通信費	157,441
事務消耗品費	177,755
消耗品費	568,574
水道光熱費	456,683
倉庫賃貸料	768,207
食品購入費	1,525,842
保険料	218,580
荷造り運賃	996,021
庸車費	294,820
租税公課	386,000
諸会費	3,150
振込手数料	25,500
車両購入・修理費	579,294
備品購入	258,221
助成金精算	142,000
その他	37,246
事務所家賃等	1,012,800
当期正味財産増減額	5,311,048
前期繰越正味財産額	6,020,927
次期繰越正味財産額	11,331,975

食品配布先の機能別実績（令和5年4月1日～6年3月31日）

業種	件数	実績（kg）
ひとり親会	5	15,547
外国人支援団体	3	14,557
こども食堂	29	12,105
フードバンク	5	3,692
社会福祉協議会	4	3,426
地域の助け合い	6	3,375
障がい者作業所	11	3,324
高齢者支援組織	11	3,140
その他の組織	6	2,449
個人支援（計85人）	0	1,903
役所・県社協など	12	1,639
無料定額宿泊所	2	880
社会福祉施設	4	728
学校	3	288
児童養護施設	3	106
ホームレス支援組織	1	18
サンプル、廃棄	0	106
	105	67,283